

意見書案第 2 号

教員定数の抜本増を求める意見書

上記の意見書を次のとおり提出する。

平成 3 0 年 3 月 1 9 日提出

提 出 者
向日市議会議員 常 盤 ゆかり

賛 成 者
向日市議会議員 松 山 幸 次
杉 谷 伸 夫

教員定数の抜本増を求める意見書

今日、わが国の教員の勤務実態は看過できない深刻な事態にある。とりわけ、一日平均12時間ちかい長時間過密労働の是正は、教員の命と健康にとっても、子どもの教育にとっても、喫緊の課題となっている。

この問題の解決には、一つには、中央教育審議会などで検討されているように教員が負担している業務の思い切った整理・削減が必要である。

それぞれの学校において、創意あふれる授業と子どもの生活指導のための時間を確保したうえで、それ以外の業務の整理・削減が、教員らの意見を反映させた形で、進むことを期待する。

同時に、問題を根本的に解決するためには、業務を担う教員の増員をはかることが不可欠の課題となっている。

国の基準がつくられた昭和33年当時にくらべ、今般の「主体的・対話的な深い学び」の要請は、従来以上の授業準備を教員に求めているといえる。

教員の増員により、教員一人当たりの担当授業時数を適正な水準まで引き下げることが必要である。子どもの貧困、いじめの増加、不登校の比率が高止まりで推移していること、外国人の児童生徒数の増加、発達障がい児童生徒の増加などの学校教育をめぐる状況の変化は、教員の業務の増大を予測させるものである。

よって、国におかれては教員定数の抜本増を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年3月19日

京都府向日市議会